



【小野中学校】

＜第1学年：「地域を知る」地域の現状について知ろう＞

1年生では、地域を知るために「自助」の視点で防災学習に取り組み、地域の安全を守る取組や、それらに携わる人々を知り、自分も地域の一人として何ができるか、非常変災等の緊急事態でどのように行動すればよいのか考えた。

出前授業では、松山工業高校の生徒、教員を講師に招き、防災について学んだ。高校生のクイズに答えたり、重要なポイントをメモしたりして、理解を深めた。

松山市が進めている「松山逃げ遅れゼロプロジェクト」の取組の一つであるマイ・タイムラインの作成を行った。非常時の持ち出し品、備蓄品として取り上げたものをチェックリストに記入し、行動計画を作成した。その後、意見交換を行い、自分でできることを考え、行動することが社会の一員として大事であることを理解した。



＜第3学年：「未来につなぐ」ふるさと小野を未来につなぐ＞

3年生は、中学校3年間で系統的に学んできた防災学習の最終段階「公助」の視点で学習を進めた。

能登半島地震の際に被災地に派遣された、市役所防災・危機管理課や陸上自衛隊松山駐屯地の方から、実際に体験した話を伺った。実際の被害状況が分かる写真や鮮明な体験談は印象深く、改めて地震や自然災害の怖さを学ぶことができた。

また、松山市役所、愛媛大学協力の下、避難所運営ゲーム（HUG）を行い、自分たちが避難時におけるリーダー的な役割となるロールプレイを体験した。突然のハプニングやたくさんの観光客など、想定外の事態にも皆で協力して知恵を出し合うことができた。実際に疑似体験をすることで、一人ひとりに寄り添った気遣いや避難所運営の大変さを学んだ。

3年間の防災学習を通して、生徒は、自分の身の安全を守り、人を助け、自他の命を守る行動をとるためには、知識や技能が必要であることを理解した。中学生の自分にも災害に備えて、または災害時にできることがたくさんあり、防災学習で学んだことをしっかり今後の生活に生かし、もっと知識を深めていきたいという気持ちも高まった。

